

平成29(2017)年「正覚寺報」7月号

ご案内

親鸞聖人七百五十回大遠忌実行委員会

7月2日(日)19時～、第5回実行委員会を営んで戴きました。大変お疲れ様でした。

ただいま、お稚児さんの参加募集を続けております。五十年に一度の最も大切な御勝縁にお会い戴けるよう、“外孫さん”のご縁も含め、“北小松地域外”にお住まいの方々にも、わが事としてお声をおかけ戴きたくお願い申し上げます。

仏教婦人会例会6月16日(日)19時半～

仏教婦人会恒例の例会です。寺院活動の中で最も伝統が古い活動です。お一人でも多くの皆様の参加をお待ちしております。

はじめての常例布教を営みました。

去る6月17日(土)、瓜生 崇布教使をお招きしてはじめての常例布教を営みました。

これは、今年の降誕会が花祭り合同開催になりましたのでご法座の営みを常例布教に移したためです。昔は常例線と称して数ヶ寺がある時期次々と開催するしきたりがありました。滋賀教区では恒例の常例布教の復活が叫ばれていますが、期せずして正覚寺ではその先駆けを担わせて戴いたのであります。

実質的には、昨年の報恩講法座の満日中のご法座がさびしく、折角お招きした瓜生布教使のお話を十分お聞かせに戴けなかったことから、布教使様に特にお願いして、“話し残されたところをしっかりと聞かせ戴きたい”とお願いしてお運び戴いたものです。

当日は“信心とは何か”いきなりそのお話に入りますがよろしいですかとおっしゃってお話戴いたのが印象的でした。

瓜生師のお話は端的で切れの良いところが特徴でいらっしゃいます。お参りの皆様にお慶び戴いたのが何よりでございました。

愛知上組親鸞聖人讃仰布教大会への出講

去る7月1日(土)、住職は、愛知上組の親鸞聖人讃仰布教大会に出講致しました。同組の大会はお参りが毎年20名ずつ増え、今年は遂に190名ものお参りになり会所のお寺を確保するのが大変だとお聞かせに与りました。

同組への出講は二度目のご縁でしたが、坊守の里のご縁を通して組長、讃仰布教ご担当の法中様方はいずれも親戚法中であり、会所のご住職を含め嘗ての瓜生津先生の勉強会仲間、ただ今の大田先生の勉強会仲間が多く今一つの故郷に帰った思いでありました。

ご法話は“浄土真宗の信心”とは、“如来様の仰せを疑わないこと”と言われる。“疑わない”というネガティブ表現では現代には伝わらない。海外社会にも視点を据えればポジティブ表現できなくてはならない。ではどういう説きぶりになるかと問い、“如来様の仰せ”に対して、“左様か”と頭を垂れることであるとご案内し、“二河白道(にがびやくどう)“、“摂取不捨(せつしゆふしゅ)の利益“のおこころをるるお伝えし、最後は、“のんのさま“のお歌で南無阿弥陀仏のお心に遇わせて頂きましょうと結んで参ったのであります。合掌